

図2. C-3区土壤2出土人骨（男性？・壮年）

## 第VI章 まとめ

### 第1節 遺構

#### 1) I 地区について

I 地区においては、B地点で切石積みの石組み遺構が検出された。遺物の出土状況や文献史料との比較検討の結果、これらの石組み遺構は近世の寿国寺の洋池にあたる可能性が極めて高いと判断される。今回の調査事例では方形規格の池状の遺構が一部検出されたのみであるが、『三國名勝圖會』にみる天保年間の絵図には中央に中島をもつ左右対称の切石積みの洋池が描かれており、今回の発掘調査の結果と状況が符合する。文献史料にみる近世の寺院を発掘調査によって確認した調査事例として注目される。

B地点において検出された石組み遺構においては、下床に胴木を敷設して基礎の安定をはかり、その上に石組みを行う工法がみられる。この工法は近世の石組み工法としてはすでによく知られたものである。しかし、中央の方形石組み遺構では、胴木の下にさらに枕石が敷設されている状況がみられた。この方形石組み遺構の下床に埋設された切石は、胴木を安定させる工夫としては興味深い。洋池内部の、軟弱な地盤に対応する技術的工夫とみることができよう。

石組み遺構の内部および背面には、多量の礫が胴込め石あるいは裏込め石として投入されており、石組み遺構の構造を強固なものにする役割を果たしている。西側石列遺構で確認された要石の存在も、石組み遺構を築造する際の技術的要素として注目される。

B地点における石組み遺構群の検出は、近世の土木技術を具体的に示す調査事例となった。

一方、A地点では井戸遺構やピット群などが検出された。これらは洋池が検出されたB地点とは全く異なる施設が周囲に存在する可能性を示すものである。今回の調査ではそれぞれの遺構について個別的な機能を具体的に明らかにすることはできなかったが、土地利用の様相はB地点とは明らかに異なる。『三國名勝圖會』には洋池の奥に複数の建造物が描かれており、こうした建物の一部である可能性も考えられる。

今回の発掘調査の成果は、おおむね文献史料にみる記載と符合する。方形石組み遺構や石列遺構の出土状況は『三國名勝圖會』にみる記載と極めて類似しており、発掘調査において明らかになった遺構の機能を考える上で重要な資料となった。しかし、B地点における切石配石遺構や杭列の存在は、文献史料にはないものであり、この点については今後さらなる検討を要する。（馬籠亮道）

#### 2) II 地区について

今回の調査では、近世期の最も古い生活面を検出した結果、H・I-2・3区およびA-C-2～5区では、急な段落ちがみられるシラス造成面とそれに伴うスロープ状遺構、人骨が伴う4基の土壙、性格は不明であったが多数のピットや土坑が検出された。特にシラス造成面は、A-C-2～5区では南北方向約70mにわたり検出された大規模な遺構である。また、スロープ状遺構は東西方向に約50mの間隔で見られる遺構である。これらの遺構群だけではその性格などについて明確な解釈を行うことはできない。しかしI地区における遺構検出状況と文献史料との検討結

果と、II地区の遺構群の検出状況とを併せて考察すると、II地区の遺構はI地区の遺構群に続く寿国寺跡に係わる遺構である可能性が高い。

また、第III章や第IV章第2節で述べたように、II地区で近世期の生活面と古墳時代や古代の遺物を含んだ層とが交互に見られた状況は、シラス台地斜面部が崩落することにより流入した結果を示したものである。つまり、ここはシラス台地斜面部が崩落し多量のシラス土が流入するたびに、整地作業を行い復旧もしくは復興を行う、という事態が近世から近代にかけて再三再四繰り返された、災害に見舞われ続けた遺跡であったと、考えられる。

さらに今回の調査の成果として、I地区部分では石組みによる遺構構築が行われていたのに対して、II地区部分ではシラス土を大規模に造成し構築していることを確認した、ことが挙げられる。寺院の基盤をこのように構築する特徴が、薩摩藩もしくは南九州では普遍的な状態であるのかは今後の検討課題である。

ところでII地区的各調査区では、建造物の跡を確認するに至っていない。したがって寿国寺の本殿などの本体部分は、調査地区的東側に広がる部分であろうと、想定される。（八木澤一郎）

## 第2節 遺物

### 陶磁器について

今回の報告に当たっては遺跡をI地区・II地区に分けて行ったが、陶磁器類に関して比較すると、土師質土器（焰火・火舎等）やメンコの出土量などの違いは認められるが、陶磁器の出土組成は両区とも同様であり、出土地点を区分して考察する必要を見いだせない。よって、ここでは、I・II地区的陶磁器を総括してまとめを述べることとする。

陶磁器類は、使用目的を重視し用途別に分類したが、碗・皿をはじめとする食器類を中心に、寺院特有の仏具や大鉢（植木鉢）等数多くの器種が出土している。碗・皿に関しては、18世紀後半からのいわゆる「くらわんか手」と呼ばれる大量生産された雑器が目に付く。その多くは、肥前系のものであるが、中には鹿児島県川内市で焼かれた平佐焼などの在地系の製品も含まれる。また19世紀前半頃と考えられる端反形碗や同様の時期と考えられる蛇ノ目凹形高台の皿等も多く出土している。また、肥前系のみならず在地産資料の増加も特徴的であり、薩摩藩領で磁器生産が安定化したことを示すものであろう。そのほか陶器碗としては、唐津焼、佐賀県内野山窯と思われる碗や皿、関西系の京・信楽焼と思われる資料など、少量ではあるが出土している。しかしながら、それ以上に目に付くものは、姶良郡加治木町龍門司焼と同郡姶良町の西餅田系（元立院・小松窯）と思われる製品である。これらの窯の製品は、仏具や灯明具にも多く見られる。

陶器碗の中で、胎土等の比較から在地系のものと考えられる資料（69）は興味深く、外面に大根とまな板と包丁の文様が描かれている。4足付まな板は当時の薩摩の生活用品の様相を伺うことができる。

瓶・擂鉢・鉢・壺・壺等の資料も多く出土しており、そのほとんどが苗代川系のものであるが、肥前系の二彩の大甕や琉球産の大鉢（植木鉢）や、荒焼の泡盛酒瓶（長胴瓶）も出土している。

そのほかに、17世紀代と考えられる肥前染付の皿（77）や、1670年頃の山元窯の碗（57）、

## 17世紀代の苗代川系

と思われる内面に叩  
き目の残る薄手の片

口 (489) 等が出土

しているが、出土品のほとんどは18世紀後半から19世紀代にかけてのものであり、寿国寺の創建から廃寺までの時期を解明する資料である。

鹿児島城下の発展は、天保年間の初め頃、鶴丸城を中心に今の鹿児島駅方面と連携してきたと考えられるが、その後、寿国寺が創建された天保年間中頃になると、その広がりが反対側の甲突川を越えて現在の西鹿児島駅方面まで広がってきたと考えられる。本遺跡から出土する遺物は、これを裏付ける資料として捉えることができよう。（関明恵）



## 第3節 総括

今回の寿国寺跡の調査は、文献史料にみえる近世の仏教寺院の痕跡を具体的に確認する事例となつた。同時に、近世の土木技術を知る数少ない調査事例としても注目に値するものである。

また、同時期の文献史料には寿国寺の他にも多くの寺院が記載されており、一帯が街道筋の寺町として発展していた様子がうかがえる。今回の調査は、断片的ながらも廃仏毀釈以前の仏教寺院の痕跡を具体的に示し、近世の薩摩藩における仏教文化の様相を推測させる貴重な事例として注目される。（馬籠亮道）

### 【参考文献】

- 姶良町教育委員会 1995 「元立院窯跡」  
上田秀夫 1982 「14~16世紀の青磁鉢の分類」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会  
大橋康二 1988 「史前陶磁」 ニュー・サイエンス社  
大橋康二・西田宏子 1988 別冊太陽『古伊万里』 平凡社  
大橋康二 1994 「古伊万里の文様」 理工学社  
大橋康二 1995 「九州における明末~清朝代の出土分布とその内容について」『青山考古第12号』  
小川啓司 1974 「そば猪口絵瓶辞典」 光芸出版  
小野正敏 1982 「15~16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会  
鹿児島県教育委員会 1978 「薩摩燒古窯堅野(冷水)窯址」  
鹿児島県歴史資料センター蒙明館 2000 「世界のさつま」  
鹿児島市教育委員会 1992 「大堀遺跡」  
鹿児島市陶磁器研究会 2002 「からくら 記念号」  
加治木町教育委員会 1995 「山元窯跡」  
加治木町教育委員会 2001 「勢勒窯跡」  
九州近世考古学会 2000 「九州陶磁の編年」  
古泉弘 2001 「N江戸の墓と葬制2埋葬形式」『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房  
古泉弘 2001 「V江戸の生活文化2喫煙2煙管」『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房  
古泉弘 2001 「W江戸の遺物4木製品」『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房  
川内市歴史資料館 2000 「用と美 平佐焼の世界展」  
中井さやか 2001 「V江戸の遺物5漆器」『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房  
中島由美 2001 「萬葉猪口・酒器1000」 講談社  
波佐見町教育委員会 1999 「波佐見焼400年の歩み」  
波佐見町教育委員会 1999 「波佐見焼400年の歩み」  
橋口亘 1999 「薩摩出土の清朝陶器」『貿易陶磁研究』No.19 日本貿易研究会  
橋口亘 2002 「鹿児島県地域における16~19世紀の陶磁器出土様相~鹿児島県地域の近世陶磁器潮流~」『鹿児島県地城史研究』  
渡辺芳郎 2000 「近世薩摩焼擦鉢考」『鹿児島考古34号』 鹿児島県考古学会

圖版 1



① I 地區 2 T 北壁土層斷面狀況



② I 地區 9 T 北壁土層斷面狀況



① I 地区 B 地点遺構検出状況



② I 地区 B 地点方形石組み遺構および下部胴木検出状況

図版 3



I 地区 B 地点方形石組み遺構下部桐木検出状況



① I 地区 B 地点東側石列遺構下部胴木検出状況 ② I 地区 B 地点南側石列遺構下部胴木検出状況



③ I 地区 B 地点西侧石列遺構検出状況

圖版 5



① I 地區 B 地點杭列遺構檢出狀況（杭 2, 14）



② I 地區 B 地點杭列遺構檢出狀況（杭 4）



① I 地区 B 地点杭列遺構検出状況（杭11）



② I 地区 B 地点杭列遺構検出状況（杭13）



③ I 地区 B 地点杭列遺構検出状況（杭 7）

图版 7



① I 地区 B 地点杭列遗構検出状況 (杭 1)



② I 地区 B 地点杭列遗構検出状況 (杭 9)



③ I 地区 B 地点杭列遗構検出状況 (杭 10)



① I 地区 B 地点杭列遺構検出状況（杭12）



② I 地区 A 地点ビット群遺構検出状況（ビット11）

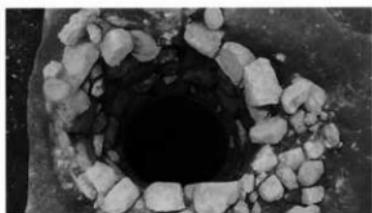
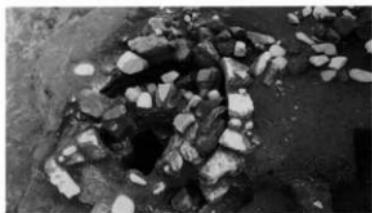


① I 地区 A 地点 ピット群 遺構検出状況 (ピット 3)



② I 地区 A 地点 ピット群 遺構検出状況 (ピット 4)

図版 10

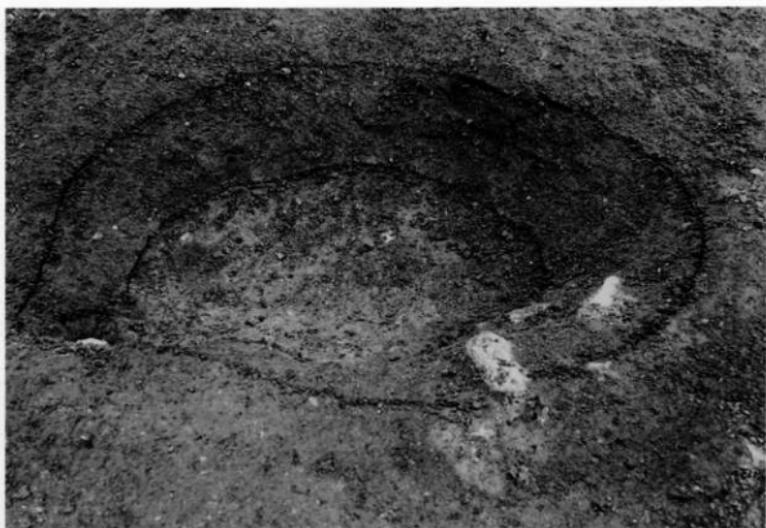


I 地区 A 地点井戸検出状況

図版 11



① I 地区 A 地点 磁石遺構検出状況（磁石 3 号）



② I 地区 A 地点 磁石遺構完掘状況（磁石 3 号）

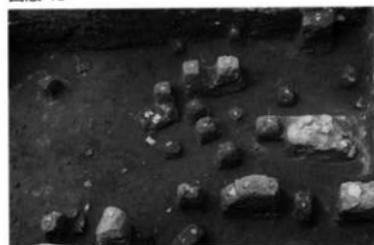


① I 地区 A 地点磁石遺構検出状況（磁石 1 号）



② I 地区 A 地点磁石遺構完掘状況（磁石 4 号）

図版 13



①II地区H・I-2・3区遺物出土状況（確認調査T 3）



②II地区H・I-2・3区遺物出土状況（確認調査T 4）

③II地区H・I-2・3区北壁土層断面（確認調査T 4）



④II地区H・I-2・3区南壁土層断面状況



①II地区H·I-2·3区完掘状况



②II地区H·I-2·3区溝状遺構検出状況

図版 15



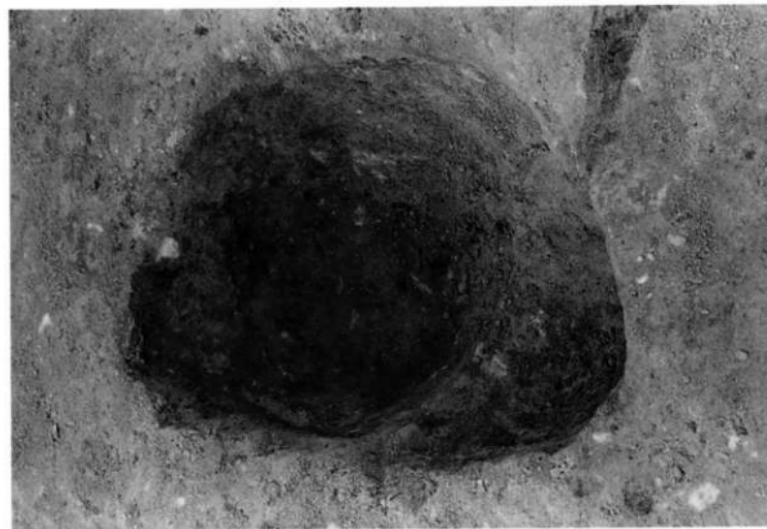
① II 地区 H・I-2・3 区遺構検出状況（西側）



② II 地区 H・I-2・3 区遺構検出状況（西側）



③ II 地区 H・I-2・3 区遺構検出状況（東側）



④ II 地区 H・I-2・3 区井戸跡検出状況



① II 地区 E・F-3 区南壁土層断面状況



② II 地区 E・F-2・3 区北壁土層断面状況（確認調査 T 7）



③ II 地区 E・F-2・3 区遺物出土状況（確認調査 T 7）

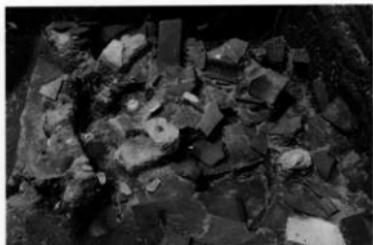


④ II 地区 E・F-2・3 区遺構検出状況

図版 17



① II 地区 B - 2 区北壁土層断面状況（確認調査 T 8）



② II 地区 B - 3・4 区遺物出土状況



③ II 地区 B - 3 区北壁土層断面状況



④ II 地区 B・C - 3 区北壁土層断面状況

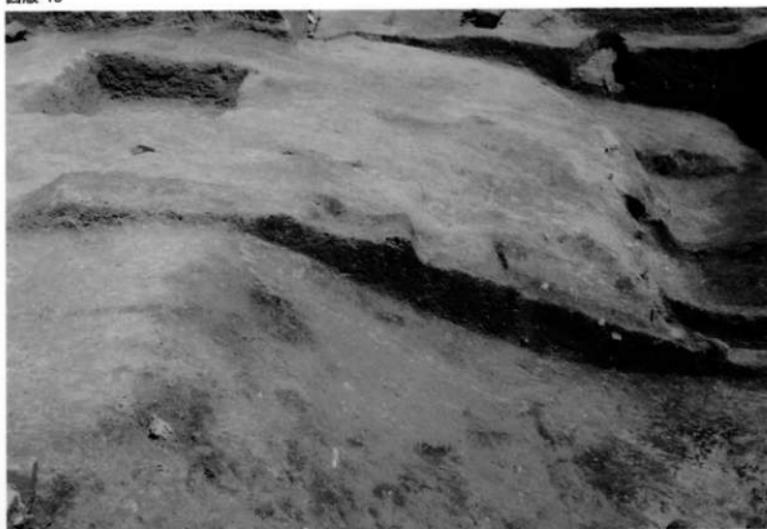


①II地区B・C-3・4区遺構完掘状況（南側から）



②II地区B・C-3・4区遺構完掘状況（北側から）

図版 19



①II地区B・C-3・4区遺構完掘状況（南側から）



②II地区B・C-2・3区遺構完掘状況（南側から）



①II地区B・C-3・4区土坑完掘状況（北側から） ②II地区B-5区土坑完掘状況（東側から）



③II地区B-4区土坑内礎石検出状況

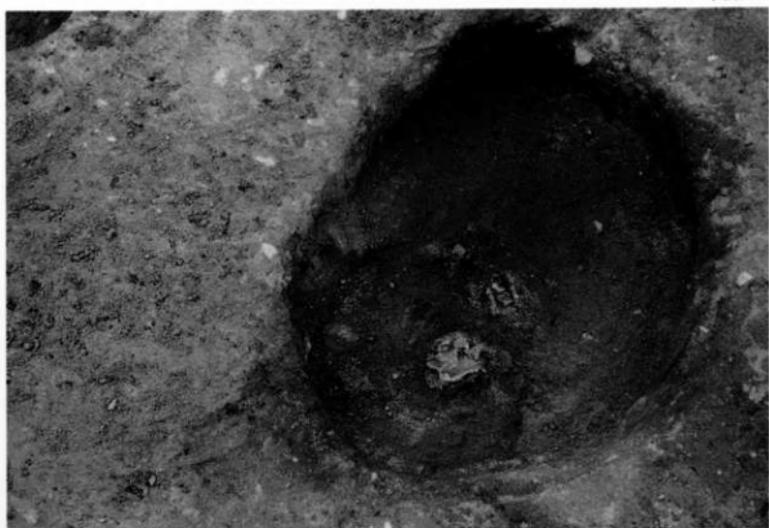
図版 21



① II 地区 B - 2 区土壤 1 半裁状況



② II 地区 B - 2 区土壤 1 人骨検出状況



① II 地区 C - 3 区土壤 1 人骨検出状況

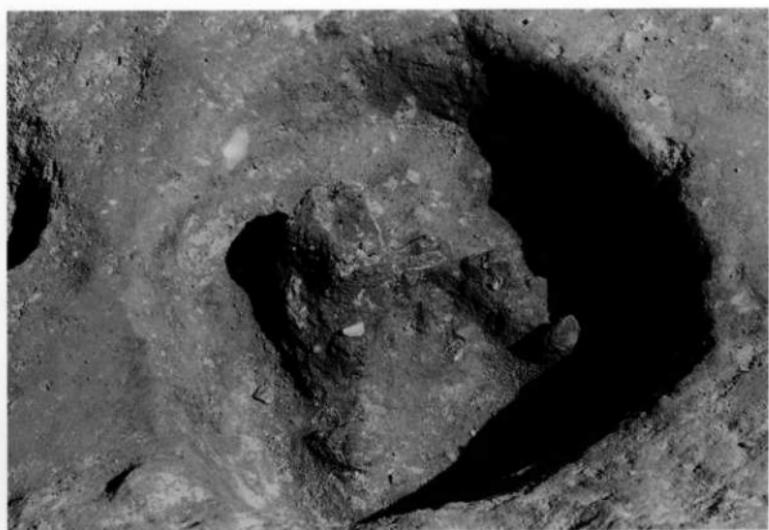


② II 地区 C - 3 区土壤 2 人骨検出状況

図版 23



①II地区C-3区土壤3 半裁状況



②II地区C-3区土壤3 人骨検出状況



② II 地区 C - 3 区土壤 3 人骨检出状况



② II 地区 C - 3 区土壤 3 人骨检出状况

图版 25



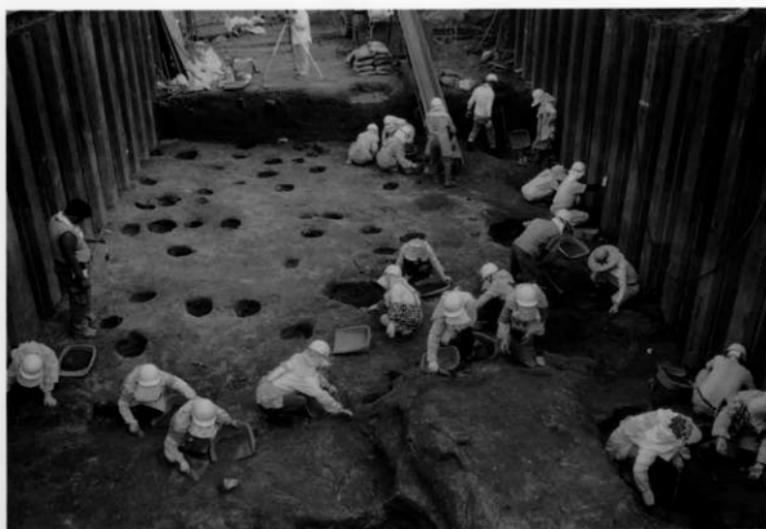
① II 地区 B - 3 区土坑检出状况



② II 地区 B · C - 3 · 4 区土坑检出状况



(左) 圖 26 ①確認調査風景 (I 地区)



②緊急発掘調査風景 (II 地区 H・1-2・3 区)

図版 27



① I 地区 B 地点土製品出土状況 (445)



② I 地区 B 地点木製品・横櫛出土状況 (395)

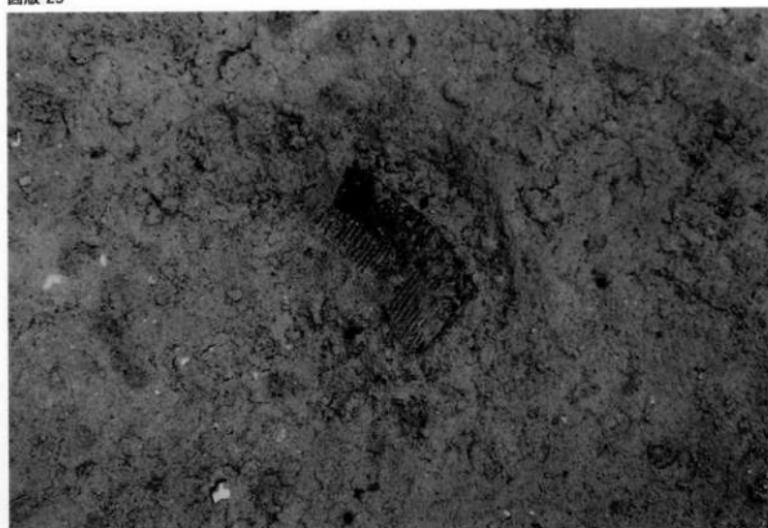


① I 地区 B 地点木製品・板状製品出土状況 (374)



② I 地区 B 地点木製品・雑器出土状況 (375)

圖版 29



① I 地區 B 地點漆製品出土狀況 (340)



② I 地區 B 地點木製品・下駄出土狀況 (414)



① I 地区 B 地点漆製品出土状况 (339)



② I 地区 B 地点陶磁器出土状况